

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	神戸市立兵庫中学校北分校 校長 杉原 尚史	研究グループ名 (日本語指導研究グループ)
-----------------	--------------------------	----------------------------

研究テーマ分類番号 (17)

(1)研究テーマ
夜間中学生の学習基盤づくりに向けた、日本語指導力向上教員研修
(2)研究経過及び具体的な取組
<p>神戸市立兵庫中学校北分校（夜間中学）は、様々な事情で義務教育を修了できなかった人のための学校です。生徒の多くは高等学校への進学を希望し、毎年60%程度の生徒が定時制高校へ進学している。</p> <p>近年の入学生は、新渡日の若い世代や帰化した日本国籍を有する生徒が増加する傾向にある。このため、学習や進学のための、生活言語や学習言語の理解・習得が課題となっている。</p> <p>日常の授業では、個々の生徒の習熟度に応じた基礎・基本的な事項を繰り返し学習する教材を準備し、きめ細かな指導に努めている。しかし、生徒に高校進学後に役立つ学力をつけるには、教員が日本語指導力を身につけ、向上させる必要がある。</p> <p>本研究では、日本語指導力向上のため、外部から日本語指導の資格を有する指導員を講師として招聘し、教員への「日本語指導法研修」や授業観察による個々の生徒に応じた、効果的な学習法や指導法を検討する「個に応じた指導実践研修」を計画的に実施している。</p> <p>教員は、研修の成果を活かした生徒への日本語指導を行うと共に、多文化共生サポーター等とも連携し、生徒の学習基盤の充実を図っている。</p> <p>7月12日、19日、8月23日 教員の日本語指導力や生徒の学力の把握と指導法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施場所：北分校多目的室 ・調査方法：日本語指導員の授業観察により、教員の指導法・指導内容、生徒の日本語に対する学力を把握し、効果的な指導法を検討協議する。 ・調査成果： 母語に関わらず、原則日本語による日本語指導を行う。 個々の生徒について指導教員を決め、生徒の学力を把握し、継続的に指導する。 指導は、教師1人に対し1～2名を原則とする。 「みんなの日本語」(スリーエーネットワーク)を主教材として、語彙カードや自作プリントなどの副教材を活用し、オーラルを中心に指導する。 反復ドリル、代入ドリル、変換ドリル、拡張ドリル、QAドリル等を適宜使用し、生徒の日本語習得の状況に応じ、学習方法や学習プログラムを工夫する。 <p>9月6日～12月13日 計9回 生徒の学習の状況を捉え、指導法についての指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施場所：北分校多目的室

- ・分析方法：日本語指導員が、日本語指導の状況を観察し、教員に指導助言を行う。
- ・分析結果：主教材は、「みんなの日本語」(スリーエーネットワーク)を使い、語彙・文法については、中国語版、ベトナム語の翻訳版等を使うことが効果的である。家庭・職場等で日本語を聞き、話す機会を増やす。随時、電子辞書を使い調べることも効果的である。

初級A(1名) 日本語はほとんど理解できない。日本語版と中国語版を使用。

- ・1対1での指導を基本とし、あせらずじっくり指導を進める。
- ・会話文を中心にし、文法の指導はある程度進歩してからにする。

初級B(2~3名) 日本語を少し理解できる。日本語版と中国語版を使用。

- ・指導中、他の生徒との中国語による会話は厳禁する。
- ・中国語版を使い文法も進めていく。

中級(1~2名) 日本語をある程度理解できる。日本語版と中国語版を使用。

- ・ある程度理解が進めば、中国語版で自主的に学習することもよい。
- ・会話と文法を効率よく進め、書く力も育成する。

ベトナム語(1名) スペイン語(1名) ポルトガル語(1名)

- ・ベトナム語は「や行」が発音しにくい等、その語の特色を知る。

- ・様々な母語を話す生徒に対して、日本語で直接指導することが基本であるため、教員は、自信を持って指導することができる。



12月20日 日本語指導研究についての報告会

- ・実施場所及び人数：北分校音楽室、12名
- ・成果と課題：

成果 5月から試行錯誤の中はじめた日本語指導であったが、毎月2回程度日本語指導員から指導助言を受け、さらに、指導方法や工夫を学ぶことができ、大いに参考になった。

指導はオーラル中心で、文型を使って練習させていく。語彙の導入は翻訳本の各国版を使って行う等、指導の流れがよく分かった。

聞く・話す 確認のための読み、定着のための書き テキストをすらすらと読めるまでの進歩を目指す必要性も理解できた。

はじめ生活言語を学習し、学習言語につなげていくことの大切さも理解できた。
毎日1時間の日本語指導であるが、生徒の日本語の力は確実に身につけており、
生徒の学習基盤の形成に効果がある。

課題 2名指導のグループで、欠席者との進度が開いた場合の指導法。

高齢者については学習の速さが遅く、忘れることも多いため、進度が遅くなる。
母語にない「音」への対処、母語干渉が強い語句などの指導方法は難しく、その
都度日本語指導員より指導方法について指導を受けた。